



1-1 建物概要			1-2 外観		
建物名称	個人住宅		仕様等の確定状況	建物の仕様 持ち込み家電等 外構の仕様	確定 確定 確定
竣工年月	2019年12月	竣工	<備考>		
建設地	横浜市港南区日限山1丁目				
用途地域	第1種低層住居専用地域	確定			
省エネルギー地域区分	6地域				
構造・構法	木造(枠組壁工法)	確定	評価の実施日	2019年7月21日	
階数	地上2階		作成者	高橋 純	
敷地面積	198 m ²	確定	確認日	2019年7月21日	
建築面積	75 m ²	確定	確認者	高橋 純	
延床面積	150 m ²				
世帯人数	6	仮			



2-1 戸建の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.8

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な住宅（参照値）と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 3.8

Q1 室内環境を快適・健康・安心にする

Q1のスコア = 4.3

Q2 長く使い続ける

Q2のスコア = 4.0

Q3 まちなみ・生態系を豊かにする

Q3のスコア = 2.6

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギーと水を大切に使う

LR1のスコア = 4.1

LR2 資源を大切に使いゴミを減らす

LR2のスコア = 2.5

LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する

LR3のスコア = 3.6

3 設計上の配慮事項		その他
総合 設計住宅性能評価書・長期優良住宅の認定に適合する住宅とし、環境品質・環境負荷低減に配慮した計画とする。		
Q1 室内環境を快適・健康・安心にする 熱抵抗の高い断熱材・Low-E複層ガラスを採用する。すべての居室において通風・排熱を促進する平面計画とする。ホルムアルデヒドの発散量が極めて少ない建材を採用する。開口率の確保及び居間・寝室の有効採光面積を南面の窓で確保する。	Q2 長く使い続ける 構造躯体等に劣化対策を施し、外壁・屋根の仕上げは耐用年数の長い材料を使用し乾式工法とする。維持管理のガイドラインを作成する。	Q3 まちなみ・生態系を豊かにする 構造躯体等に劣化対策を施し、外壁・屋根の仕上げは耐用年数の長い材料を使用し乾式工法とする。維持管理のガイドラインを作成する。
LR1 エネルギーと水を大切に使う 太陽光発電パネル屋根・IHクッキングヒーターの採用する。	LR2 資源を大切に使いゴミを減らす	LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する



4 横浜市重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号()を示し記述してください。

建物名称 個人住宅

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) 【省エネルギー性能】 **5**

省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)

この建物の設計一次エネルギー消費量 69 %削減



一次エネルギー消費量基準 適合

外皮基準 適合

0

受付日 2019年7月23日

誘導基準

エネルギーを大切に使う (建物の工夫 設備の性能 維持管理と運用)

太陽光発電によるエネルギーの削減。

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) 【健康・安心】 **5**

室内環境対策 (暑さ・寒さ)

断熱等性能等級 等級4を超える (相当)

UA=0.29

室内環境を快適・健康・安心にする (健康と安全・安心)

ホルムアルデヒド対策における等級3を満たしている。

その他の対策 (自然材料・通風の工夫など)

工夫の有無 あり

すべての居室において通風・排熱を促進する平面計画

防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) 【防 災】 **4**

災害に備える (災害に備える 長寿命に対する基本性能 地域の安全・安心)

日本住宅性能表示基準「1-1耐震等級」における等級3を満たしている。

建物から道路境界線までの離隔距離を1m以上確保等。

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) 【地域・まちづくり】 **2**

まちなみ・生態系を豊かにする (まちなみ・景観への配慮 生物環境の創出)

太陽光発電などの導入



太陽光利用

エネルギーマネジメントシステム導入

— —

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

蓄熱設備

CASBEE 横浜 [戸建] | 評価結果 | 31-063



CASBEE横浜[戸建] (2017年版)

個人住宅

バージョン : CASBEE横浜[戸建]2017年版v.1.4

スコアシート				
配慮項目	重点項目	評価点	重み係数	全体
QH すまいの環境品質		-	-	3.8
QH1 室内環境を快適・健康・安心にする		-	0.45	4.3
1 暑さ・寒さ		4.6	0.50	4.6
1.1 基本性能		4.2	0.50	-
1.1.1 断熱等性能の確保	健康・安心 暑さ・寒さ	5.0	0.80	-
1.1.2 日射の調整機能	健康・安心 暑さ・寒さ	1.0	0.20	-
1.2 夏の暑さを防ぐ		5.0	0.25	-
1.2.1 風を取り込み、熱気を逃がす		5.0	0.50	-
1.2.2 適切な冷房計画		5.0	0.50	-
1.3 冬の寒さを防ぐ		5.0	0.25	-
1.3.1 適切な暖房計画		5.0	1.00	-
2 健康と安全・安心		3.5	0.30	3.5
2.1 化学汚染物質の対策	健康・安心 健康と安全・安心	5.0	0.25	-
2.2 適切な換気計画	健康・安心 健康と安全・安心	3.0	0.25	-
2.3 犯罪に備える	健康・安心 健康と安全・安心	3.0	0.25	-
2.4 災害に備える	防災 災害に備える	3.0	0.25	-
3 明るさ		5.0	0.10	5.0
3.1 昼光の利用		5.0	1.00	-
4 静かさ		5.0	0.10	5.0
QH2 長く使い続ける		-	0.30	4.0
1 長寿命に対する基本性能		4.1	0.50	4.1
1.1 躯体	防災 長寿命に対する基本性能	5.0	0.30	-
1.2 外壁材		4.0	0.10	-
1.3 屋根材、陸屋根		3.0	0.10	-
1.4 自然災害に耐える	防災 長寿命に対する基本性能	5.0	0.30	-
1.5 火災に備える		2.4	0.20	-
1.5.1 火災に耐える構造		1.0	0.65	-
1.5.2 火災の早期感知		5.0	0.35	-
2 維持管理		5.0	0.25	5.0
2.1 維持管理のしやすさ		5.0	0.65	-
2.2 維持管理の計画・体制		5.0	0.35	-
3 機能性		3.0	0.25	3.0
3.1 広さと間取り		4.0	0.50	-
3.2 バリアフリー対応		2.0	0.50	-
QH3 まちなみ・生態系を豊かにする		-	0.25	2.6
1 まちなみ・景観への配慮	地域・まちづくり まちなみ・景観への配慮	3.0	0.30	3.0
2 生物環境の創出		1.0	0.30	1.0
2.1 敷地内の緑化	地域・まちづくり 生物環境の創出	1.0	0.65	-
2.2 生物の生息環境の確保	地域・まちづくり 生物環境の創出	1.0	0.35	-
3 地域の安全・安心	防災 地域の安全・安心	4.0	0.20	4.0
4 地域の資源の活用と住文化の継承		3.0	0.20	3.0
LRH すまいの環境負荷低減性		-	-	3.4
LRH1 エネルギーと水を大切に使う		-	0.35	4.1
1 総合的な省エネ		4.8	0.75	4.8
1.1 躯体と設備による省エネ	省エネルギー性能 建物の工夫	5.0	0.90	-
1.2 家電・厨房機器による省エネ	省エネルギー性能 設備の性能	3.0	0.10	-
2 水の節約		1.5	0.15	1.5
2.1 節水型設備		1.0	0.75	-
2.2 雨水の利用		3.0	0.25	-
3 維持管理と運用の工夫		3.0	0.10	3.0
3.1 住まい方の提示	省エネルギー性能 維持管理と運用	3.0	0.50	-
3.2 エネルギーの管理と制御	省エネルギー性能 維持管理と運用	3.0	0.50	-
LRH2 資源を大切に使いゴミを減らす		-	0.35	2.5
1 省資源、廃棄物抑制に役立つ材料の採用		2.2	0.60	2.2
1.1 構造躯体		3.0	0.30	-
1.1.1 木質系住宅		3.0	1.00	-
1.1.2 鉄骨系住宅		3.0	-	-
1.1.3 コンクリート系住宅		3.0	-	-
1.2 地盤補強材・地業・基礎		3.0	0.20	-
1.3 外装材		1.0	0.20	-
1.4 内装材		1.0	0.20	-
1.5 外構材		3.0	0.10	-
2 生産・施工段階における廃棄物削減		3.0	0.30	3.0
2.1 生産段階(構造躯体用部材)		3.0	0.33	-
2.2 生産段階(構造躯体用以外の部材)		3.0	0.33	-
2.3 施工段階		3.0	0.33	-
3 リサイクルの促進		3.0	0.10	3.0
3.1 使用材料の情報提供		3.0	1.00	-
LRH3 地球・地域・周辺環境に配慮する		-	0.30	3.6
1 地球温暖化への配慮		5.0	0.33	5.0
2 地域環境への配慮		3.0	0.33	3.0
2.1 地域インフラの負荷抑制		2.0	0.50	-
2.2 既存の自然環境の保全		4.0	0.50	-
3 周辺環境への配慮		3.0	0.33	3.0
3.1 騒音・振動・排気・排熱の低減		3.0	0.50	-
3.2 周辺温熱環境の改善		3.0	0.50	-